

概説

新興国通貨建債券 について



世界的な低金利の中、
資産運用の必要性はますます高まっています。

資産運用の対象商品には、
株式や債券、投資信託などをはじめ、さまざまな商品があります。
その中でも相対的に高い利回りが期待できる「新興国通貨建債券」。

この冊子で、はじめて新興国通貨建債券での
運用を検討しているタテオさんと一緒に学んでいきましょう。

新興国通貨建債券って金利
は高いけどその分リスクも
高いんだろうな…



投資家・タテオさん

為替の変動は比較的大きいですが、その
分魅力もあります。わかりやすく説明
させていただきます。



ガイド

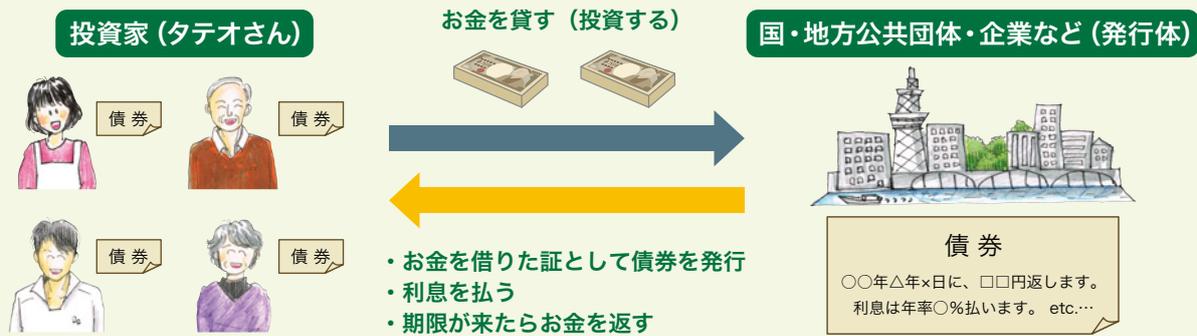
もくじ / CONTENTS

第1章 そもそも債券とは？	2
第2章 外国債券の種類	3
第3章 外国債券のリスク	5
第4章 先進国債券と新興国債券	7
第5章 新興国債券と新興国「通貨建」債券	9
■ 外国債券（外貨建債券）の取引の流れ	11

第1章 | そもそも債券とは？

 そもそも債券とは何でしょうか？

 債券とは、国や地方公共団体、企業などが資金調達のために発行する有価証券のことです。投資家（タテオさん）は、債券を購入することで国や地方公共団体、企業（発行体）に資金を貸すことになります。



 私たちはその債券を購入することで、利子をもらうことができるということですね。

 はい。投資家は、あらかじめ決められた利払日に保有している債券の額面金額に応じた利子を定期的に受け取ることができます。

 「額面」って聞き慣れない言葉ですけど何のことですか？

 額面とは債券の取引の基準となる金額のことで、通常、最終償還日には額面100円あたり100円で償還されます。

 利子を定期的に受け取りながら償還日には元本が戻ってくるということですか？

 債券は、あらかじめ償還日が決まっています。発行されてから日々価格が変動しますが、償還日には、原則として額面金額を受け取ることができます。これを償還金といいます。たとえば額面100万円の債券を保有していれば、償還日に100万円の償還金を受け取ることができます。

 必ず戻ってくるのですか？

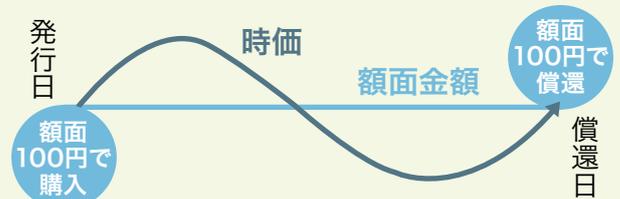
 発行体が倒産などにより債務不履行とならない限り、償還日には額面金額と最終利子を受け取れます。また、基本的に債券は償還日前でも中途売却することができます。中途売却する時の価格は、時価となります。その時の債券価格が購入時価格よりも高ければ売却益が、低ければ売却損が発生します。

 債券は中途売却によって現金化できるメリットがある一方、中途売却したら売却益が出たり、売却損が出たりするということですね。

 株式や投資信託も中途売却できますが、売買損益、いわゆる譲渡損益が発生しますね。債券も同じということです。

ちなみにオプションが組み込まれている債券（仕組債）などは、原則中途売却ができない、もしくは中途売却ができて元本割れになる可能性が高いものがありますので注意してください。

■ 債券の償還までの値動き (イメージ)



金利や信用力の変化等によって債券の時価は変動

■ 債券と株式の違い

債券

- 定期的に利息が支払われる。
- 償還日には額面金額が戻ってくる。

株式

- 配当の支払いや額が決まっていない。
- 償還日はない。

第2章 | 外国債券の種類



外国債券とは、海外の債券ですよね？



外国債券とは、「発行体」「通貨」「発行市場」のいずれかが海外に関係する債券のことです。

外国債券とは、下表のいずれかが海外に関係する債券

発行体	外国または外国企業等
通貨	払込金、利子、償還金のいずれかが外国通貨またはすべてが外国通貨
発行場所	外国市場



また、外国債券は、下表のように分類することができます。

通貨	円建債券	払込金、利子、償還金のすべてが円貨の債券
	外貨建債券	払込金、利子、償還金のすべてが特定の外貨の債券
	複数通貨建債券	払込金と利子が円貨で償還が特定の外貨の債券（デュアル・カレンシー債）等
発行市場	国内市場	外国または外国企業等が日本国内において発行
	外国市場	外国または外国企業等が自国通貨建てで自国において発行または日本企業等が外国において当該外国通貨建てで発行
	一口市場	自国以外の外国市場で自国通貨建てで発行
利子の形態	利付債	償還日までの間、あらかじめ決められた利払日に利子の支払いがある債券（利率が一定の「固定利付債」と、利率が利払日ごとに見直しされる「変動利付債」があります）
	割引債	発行価格と償還（額面）価格との差が利子になる、いわば利子先払い形式ともいえる債券（ゼロクーポン債）
発行形態	公募債	不特定多数の投資家を対象に発行される債券
	私募債	特定の投資家や少数の投資家を対象に発行される債券

 外国債券にも、いろいろな種類があるんですね。円貨建てのものもあるんですね。

 そうですね。円貨建てで発行したほうが円滑に資金調達ができる場合などに発行されます。

 利付債と割引債の違いをもっと詳しく教えてください。

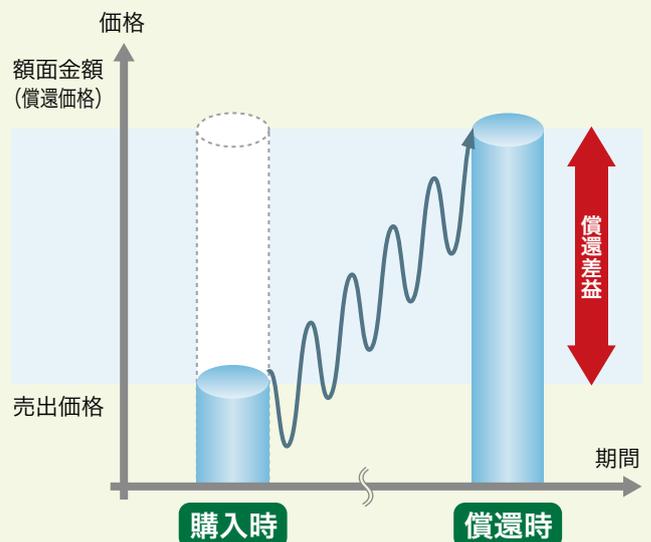
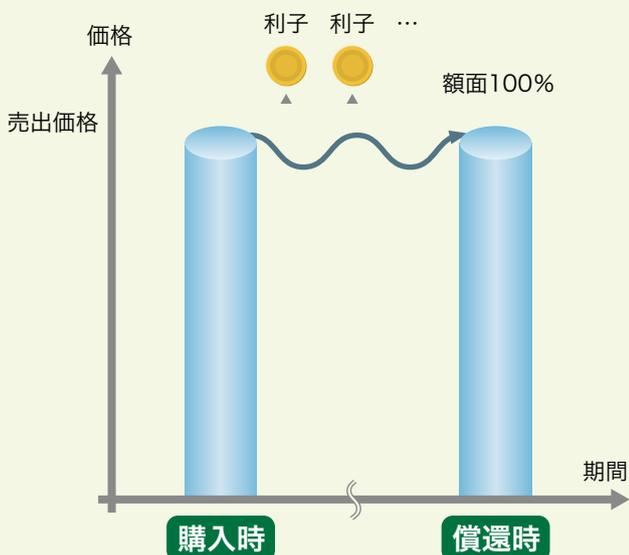
 利付債とは、その名の通り「利子が付いている債券」です。発行日から償還日までの間、定期的（半年ごと等）に利子（クーポン）が支払われるものをいいます。一方、割引債とは、利子の支払いがない代わりに、発行価格を額面価格より低くして発行し、発行価格と償還（額面）価格との差が利子になる、いわば「利子先払い形式」ともいえる債券です。たとえば、額面100円あたり90円で発行されるというものです。償還日には額面100円あたり100円で償還されますので、発行価格と償還価格との差額である10円が利子相当額となります。

 なるほど。定期的に利子をもらうか、償還日に投資元本が増えて償還されるか、どちらが良いか、ということですね。

 その通りです。自分の運用スタイルに合ったものを選ぶのが重要です。



■ 利付債と割引債のイメージ



第3章 | 外国債券のリスク

 債券は株式や投資信託など同じように価格が変動する金融商品です。主に以下のようなリスクがあります。

金利変動リスク	一般に、償還日までの間、外国債券の通貨国の金利が上昇すると当該外国債券の価格は下落し、当該通貨国の金利が低下すると債券価格は値上がりします。
為替変動リスク	外国債券の通貨高/円安になれば、円ベースでの評価額が増えるため、外国債券の価格が円安分以上下落しなければ、円ベースの価値が増えます。反対に、当該通貨安/円高になれば、円ベースでの評価額が減るため、外国債券の価格が円高分以上に値上がりしなければ、円ベースの価値は減少します。
信用リスク	一般に外国債券の発行体の信用力が低下した場合、その発行体が発行している外国債券の価格は下落し、信用力が向上すると、外国債券の価格は値上がりします。また、発行体の財務状況の悪化等により、利子・償還金の支払いが遅延したり、支払われなくなったりするおそれがあります。
流動性リスク	外国債券の売買をしようとしたときに、売買ができない、または、できたとしても不利な条件でしかできないといったリスクです。一般に新興国の外国債券は、先進国の外国債券と比較して、市場規模が小さいため、流動性リスクが高く、価格変動が大きいとされています。
カントリーリスク	外国債券の発行体の国・地域において、政治・経済情勢等の変化により市場に混乱が生じた場合や取引に対して新たな規制が設けられたりすると、一般に当該外国債券の価格は下落します。

 一般に償還までの期間が長いものほど金利変動リスクは高くなります。

 為替変動リスクは、どのように知ることができますか？

 インターネットなどで、為替相場の過去の推移や変動幅などを確認することができます。ただし、今後の動向については投資通貨の経済情勢などに関する資料等で確認しましょう。外国為替の動向が、見通し通りにならなかった場合、損失が発生する可能性があることに注意する必要があります。

 信用リスクについては、どのように判断すれば良いですか？

 信用リスクは、発行体の信用格付を目安にしましょう。

 格付って言葉は良く聞きます。発行体の信用力ランキングのようなものではないですか。

 発行体の信用格付は、外国債券の利子と償還金をきちんと払えるか、その信用力について、アルファベットや記号を用いて表したものです。発行体の信用格付は「信用格付業者」と呼ばれる格付会社が行っています。トリプルB以上の信用格付であれば、投資適格とされています。

 なるほど。格付はその債券に投資するかを判断する上で重要な指標というわけですね。

 はい。ですので、債券の発行体の信用リスクは格付を参考にしてください。

 流動性リスクというのは途中売却が容易にできるかどうか、ということですか。

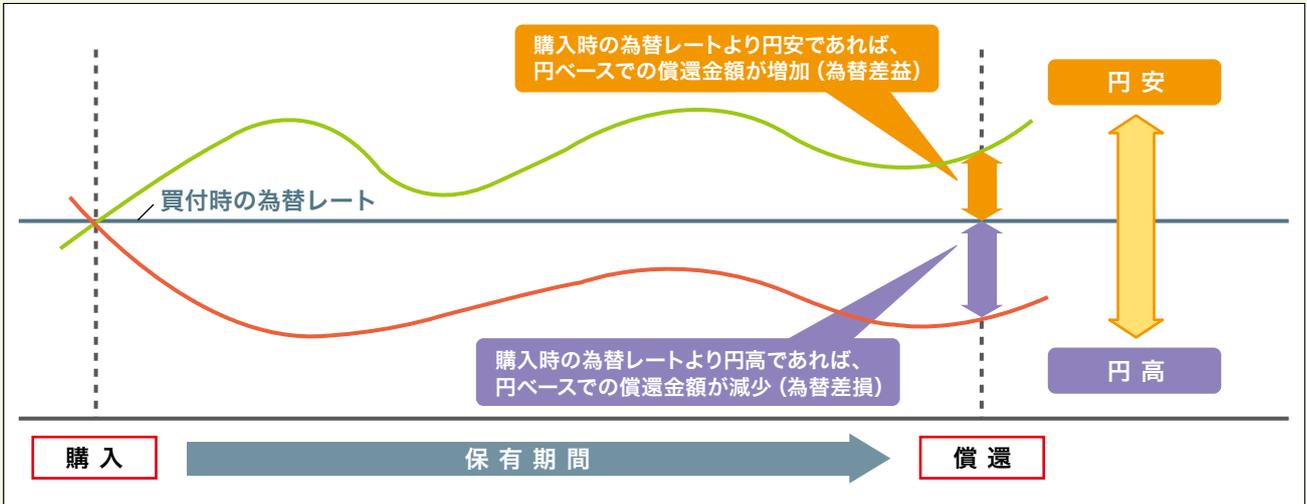
 その通りです。途中で売却する場合には、買い手が付かない場合は売ることができませんので注意が必要ですね。

発行体の信用格付について

↑ 高い 安全性 ↓ 低い	AAA	債務を履行する債権者の能力はきわめて高い。
	AA	債務を履行する債権者の能力は非常に高く「AAA」との差は小さい。
	A	債務を履行する債権者の能力は高い。
	BBB	債務を履行するための財務内容は適切であるが、事業環境や経済状況の悪化によって当該債務を履行する能力が低下する可能性がより高い。
	BB	投資適格 投機的水準
	B	
	CCC	
	CC	債務の履行について現時点での不確実性が非常に高い。
	D	当該債務は不履行になっている。
	※さらに同じ格付けでも「+」「-」を付けて強調を示す。 ※スタンダード&プアーズ社の格付けの定義より抜粋。	



為替変動リスクのイメージ



流動性リスク



第4章 | 先進国債券と新興国債券

 実際に外国債券の購入を検討してみましょう。

 利回りが高くて、元本が安全なものが良いです。

 それは誰もが望むことですが、なかなかそうはいきません。

 経済が発展している国や名前を良く目にする企業は安全な気がしますが、債券の利回りは低くなるんですよね。

 そうですね。一般に先進国の企業で経営が安定している企業は高格付となります。こうした企業が発行する債券は、信用リスクが低いため、債券の利回りは相対的に低くなります。

 利回りが相対的に低いということは、その分リスクも低いということですね。最近新聞などで目にするブラジルやインド、東南アジアなどの新興国はどうですか？

 新興国は、近年、投資や貿易が盛んになり、急速に経済成長を続けています。

 最近は日本企業も積極的に新興国に海外進出していますね。

■新興国の魅力 4つの成長エンジン



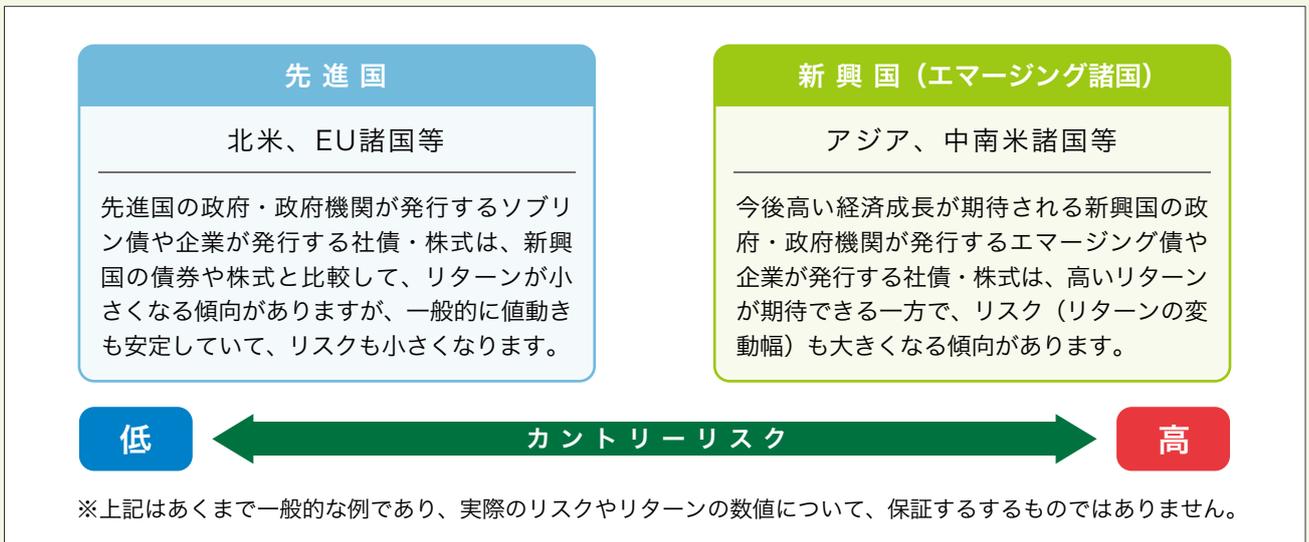
 新興国市場をエマージング市場といいます。エマージング市場は、経済が急成長している半面、政治が安定していなかったり、為替相場の変動が大きかったりするなど、先進国市場と比較してリスクが相対的に高いのが特徴です。

 先進国の国や企業が発行している債券を「先進国債券」、新興国の国や企業が発行している債券を「新興国債券」といいます。

 新興国の場合は、発行体の為替変動リスクや信用リスク、流動性リスク、カントリーリスクなどが高くなるということですね。

 はい。リスクが高い反面、新興国債券は、先進国債券よりも、一般に高利回りとなっています。その点は魅力です。

■ 先進国と新興国の違い



 新興国債券に投資をするときは、発行体の信用リスク等のほか、その国の政治や経済の動向などについても知っておくと良いでしょう。

 わかりました。でも、政治や経済の動向や見通しはどのようにして知ることができますか。

 インターネットなどで情報を入手できるほか、証券会社や銀行などがレポートを公表しています。

 そういった情報を元に投資するかどうかを決めればよいわけですね。



第5章 | 新興国債券と新興国「通貨建」債券

 昨今は、日本円、ドルやユーロ以外にも様々な通貨建ての債券があります。海外には、日本に比べて相対的に金利の高い国があります。外国債券の一番の魅力は好利回りです。外国債券のうち、通貨が日本円以外の通貨で発行されているものを「外貨建債券」といいます。

 外貨建債券には、為替変動リスクがありますね。

 その通りです。外貨で資産を保有することになるので、外貨建債券には為替変動リスクがあります。円安になると為替差益を得られる一方、円高になると為替差損を被ることになります。

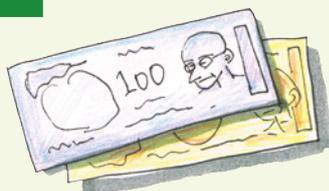
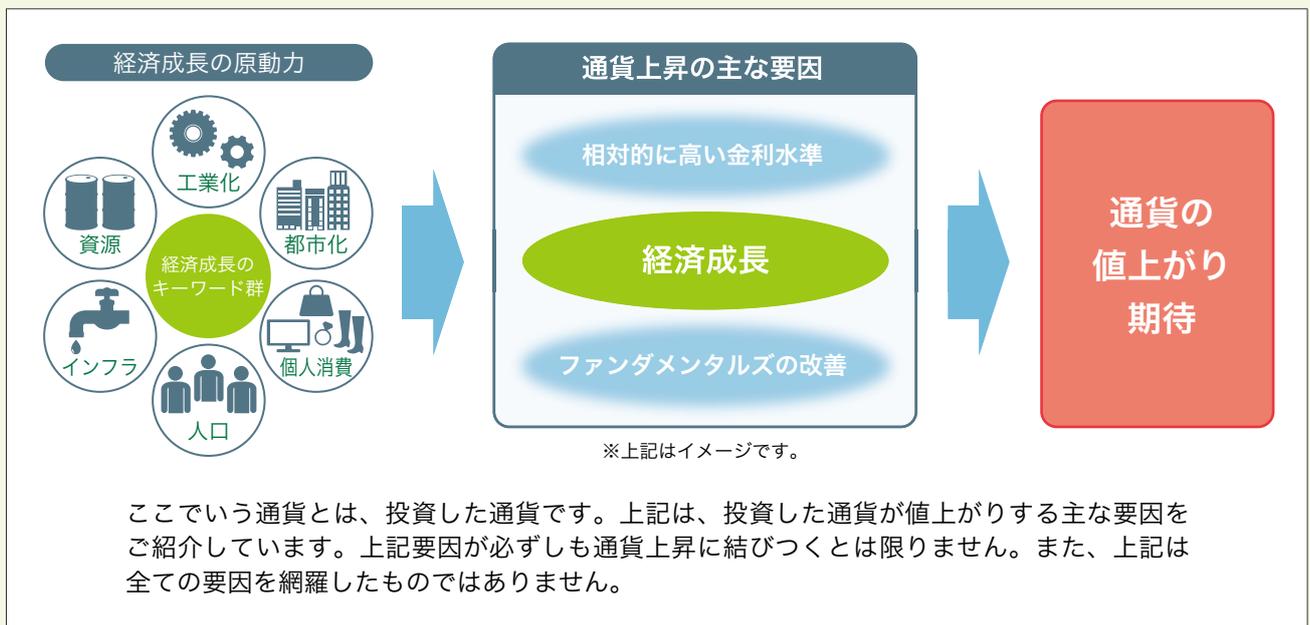
 円建債券と違って外貨建債券は為替変動リスクに注意が必要です。

 そうですね。でも、外貨建債券は、一般に好利回りですから、投資にあたっては、利子収入と為替差損益を合わせて損益を考えればいいといえます。

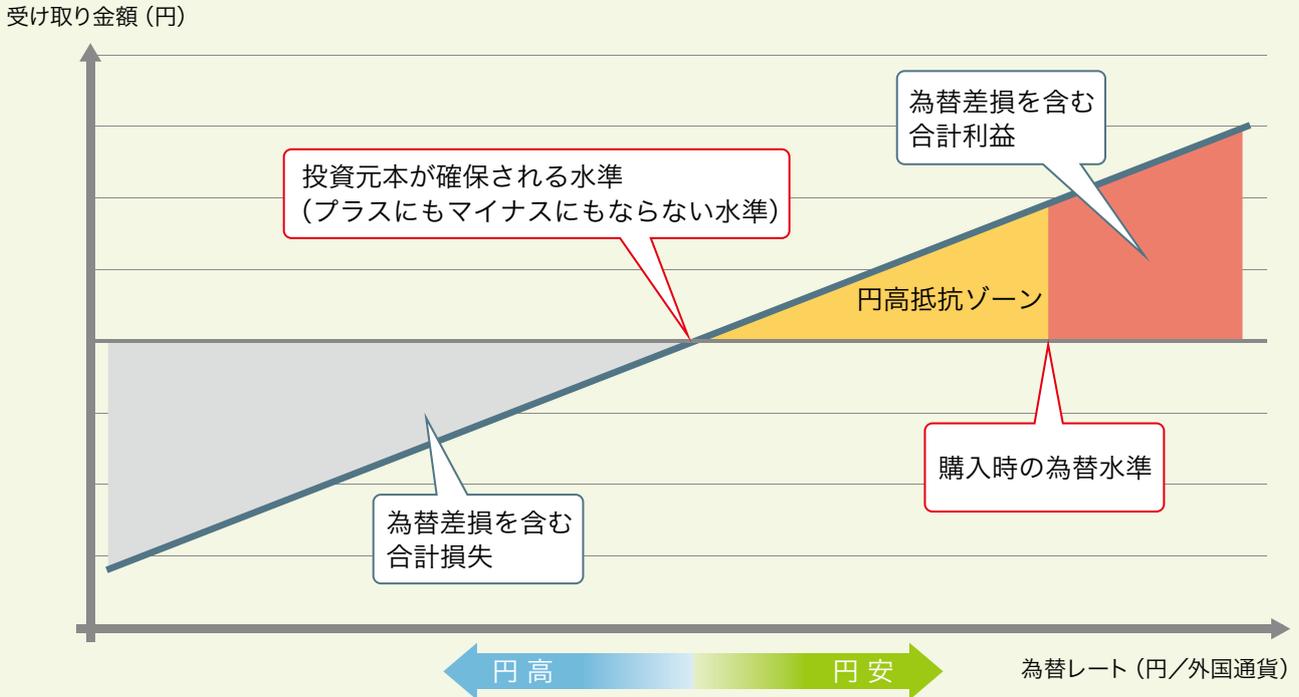
 一定水準までの円高であれば、高利回りが円高による為替差損をカバーしてくれるというわけですね。

 その通りです。これを外貨建債券の「円高抵抗力」といいます。円高抵抗力は、運用期間が長ければ長いほど、また、債券の利回りが高ければ高いほど、損益分岐点となる為替水準が低く（円高に）なります。

■ 通貨の値上がりイメージ



■円高抵抗力のイメージ



新興国通貨建債券と新興国債券の違いについて教えてください。

新興国通貨建債券というのは、インドルピーやブラジルレアルといった新興国通貨建ての債券のことです。

新興国通貨建債券の場合、発行体は様々です。先進国や国際金融機関が発行体の場合は信用リスクを抑えることができます。

発行体が先進国の場合は、発行体の信用リスクは低くなるということですね。

その通りです。一方で、新興国通貨の為替変動リスクはありますので、為替変動リスクについては十分検討する必要があるでしょう。

なお、図のように相対的に利回りが高いので、円高抵抗があります。利子収入等でどこまでの円高がカバーできるかについて把握しておく必要があるといえます。

■新興国通貨建債券と新興国債券の違い

新興国通貨建債券		新興国債券	
発行体	新興国 ← 高い信用リスク → 先進国や国際金融機関 (低い)	発行体	新興国 (信用リスクは先進国よりも高い)
通貨	新興国 (為替の変動は先進国通貨に比べて大きい)	通貨	先進国 (ドル、ユーロ、円など) ← 比較的に安定な為替の変動 → 新興国 (ブラジルレアル、インドルピーなど) (変動が大きい)

■ 外国債券（外貨建債券）の取引の流れ

めぶき証券で外国債券をお取引する流れを見てみましょう。

● 商品の説明を受ける

ご購入の前に契約締結前交付書面、目論見書、販売説明資料を受け取り、営業担当者から説明を受けます。販売説明資料には外国債券の概要が記載されています。ご購入する前に必ず目を通しましょう。購入を決める前に、わからないことがあれば必ず営業担当者から説明を受けましょう。



● ご購入の申込みと代金のお支払い



● 取引報告書の確認

ご購入後、めぶき証券から取引報告書が郵送で送られてきます。内容を確認し、不明な点があれば、営業担当者かめぶき証券カスタマーセンターへ確認しましょう。

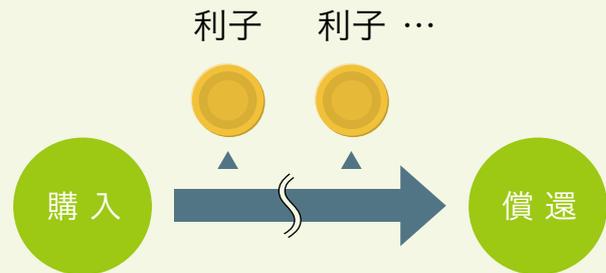




● 利子

利子は、受取通貨（外貨／円貨の別）の指定ができます（新興国通貨建債券など円貨のみの受け取りしかできないものもあります）。

また、受け取り先（証券口座か銀行口座）を指定することができます（最後の利子は指定できません。証券口座の受け取りになります）。



中途売却する

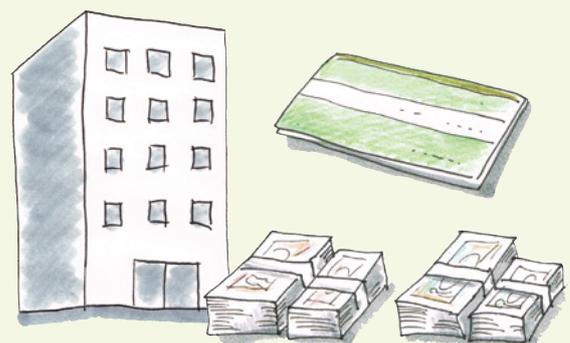
外国債券を途中で売却する場合、証券会社等が提示する価格で買い取ってもらいます。その際、金利水準や流動性等によっては、投資元本

を下回ることがありますし、売却金を円で受け取る場合、為替リスクも発生します。また、為替手数料もかかる点にも注意が必要です。



● 償還金の受け取り

めぶき証券から事前に償還の通知があります。償還金は、受取通貨（外貨／円貨の別）を指定します（新興国通貨建債券など円貨のみの受け取りしかできないものもあります）。償還金と最終利金は証券口座での受け取りとなります。銀行口座での受け取りをご希望の場合、国内支払日以降にカスタマーセンターにご連絡ください。



外国債券の手数料及びリスクについて

外国債券を購入する場合は、購入対価のみお支払いいただきます（購入対価に別途、経過利息をお支払いいただく場合があります）。

外国債券は、市場の金利変動等により債券価格が変動しますので損失を生じるおそれがあります。また、倒産等、発行体の財務状態の悪化により損失を生じる恐れがあります。

為替相場が当初お買付の為替水準より円高に推移した場合、投資元本を割り込むことがあります。

外国債券の売買、償還等にあたり、円貨と外貨を交換する際は、外国為替市場の動向に応じて当社が決定した為替レートによるものとします。

お取引の際には、必ず契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

お問い合わせは、お取引店または下記 めぶき証券カスタマーセンターまで

MEBUKI めぶき証券
めぶきフィナンシャルグループ

 **0120-41-1414**

商号等 / めぶき証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1771号 加入協会 / 日本証券業協会